〳〵、これだいである。

△明治三十年十月十二日夜島ケ原支教會長萬田萬吉

氏令室歸幽後跡々心得の爲御願

さあ〳〵事情をもつて、事情尋る、ぜん〳〵事情さとしたる、どうも事情の理〳〵、よぎなく一つ事情、いかなる事、どういふ理とおもふは、じつ〳〵の理であらうあらうなれどようきゝわけてくれ〳〵、これまでながらへてのみち〳〵、あちらでもこちらでも、どうも一時なあなんたる事おもひ〳〵のみちをとほりきた、中に一時の事情、なんたる事とおもふやらう、おもふはよぎなくの事情、ようきゝわけてくれ〳〵、此道をひろめるも、もんかたなきところより、だん〳〵年々のみちといふ、此理はみな〳〵の心にもをさまりあるやろ、此理をきゝわけてくれるなら、何かの事もあざやかといふ、なれど内々はんぜんはできやうまい〳〵、ようき聞分、處に一つの事情をはじめかけ、かたくの理をはなす中に、どういふものとおもふ、又助け一條や〳〵といふ、何が助け一條とおもふやろ、一代の中に一つのふしぎいかなる理とおもふやろ、思ふは中々の理である、難儀不自由してこそ理のたねといふ、此理はなんたる理とおもふやろ、一時のみちはどうならうとおもふ、年があけたらやう〳〵のみちになるやろとおもふ、中になんたる事どういふものと、めん〳〵もみな〳〵もおもふやろ、よう聞分てくれ〳〵、此道はじめかけたるといふは、ようきゝわけ、年は何年何月にどういふ事情があつた、わかきつよきがさきにたち〳〵、ようこの理ををさめてくれ〳〵、一代かぎりといふは、今までき

たせかいの理であらう、このみちの理といふは、將來まつ代の理、この理はさとしてもゐるやろ、なれどわすれるにわすれられんといふは、かへす〳〵重々の理である、なれどようきゝわけてくれ、わが子もさきにたて、たのしみもさきにたち、あと〳〵せかいひながたといふ、この理をようきゝわけてくれ、どんな不自由艱難もできんやあらうまい、さあ〳〵いかなるみちも、これより一つの理といふ。

△明治三十年十一月十日寺田半兵衛氏身上の願五十八歳（いきはずみせきいで脇腹いたむさわりによりてなり）

さあ〳〵尋る事情〳〵、いくたびの事情たづねば一つさとしよう、なれど事情きゝわけにやわかりがたない、内々いつ〳〵までといふ、たづねる一つ事情いくへ事情、心あんしん一時ふそくなりて尋ねばだん〳〵かはる事情なき中に事情、中に内々事情これ一つ事情きゝわけ〳〵、内々の處にとんとまだをさまろまい、事情おもひだして一つおもひ〳〵日々事情であらう、よう心しづめて聞わけ、心しづめてきゝわけていふてきかせ、内々どういふ事いつまでゝあろ、内々兄弟それ〴〵どういふこと、いつまでであろ、内々兄弟それ〴〵どういふ事、おや〳〵心毎日であらうなれど、ようきゝわけにやわからん、道の爲め人の爲めはこんでゐる、つくしてゐる、何年たてどたよりとおもふてゐるものどうもなあ日々であらう、今一時の處ではとんとおもふやうにいかん、みんなそれ〳〵事情ようきゝわけ、早いも生涯おそいも生涯、こらわかろまいなれど、よくきゝわけ

ばなるほどわかる、一時もつてどういふ事、世上なんと思ふ、これ心にあらう世上なるもいんねん、ならんもいんねん、これみんなをさめ〳〵ば夜あけるやうなもの、ようきゝわけ〳〵。

△押して（小千賀の事願ふとする處へおさとしあり）

さあ〳〵みなこもりたる、これきゝわけてほんになるほどとおもふ、夜あけるやうなもの、ようきゝわけ〳〵。

△押しておこふ親類への縁談の事情御願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、まあ内々事情おもひかはりだんだんかはりだん〳〵かはりたる、かうとおもふ處、さき〳〵心おや〳〵心、人々心一つにまかせおかうおかう。

△明治三十年十一月十三日橋本清氏辭職書差出され

就ては協議の上事情御願

さあ〳〵みんなそれ〳〵中に、いろ〳〵のはなし、いろ〳〵の事情、ながい間〳〵、もうこれどうでもかうでもさしづの理〳〵、どうでもさしづの理でなければどうもなろまい、此道をしりてるものがないからどんならん、此道しりてるなら、あゝいふ事あらせん、道がわからんからわからんことになる、どうなるかうなる、心の理わからんからわからん、みんなこれをしへといふ理がある、教にしたがふてとほらんから、きれいなみちがむさくろしいなる、みな行きにくい道を尋てさがすからどんならん、一人二人三人の心でせかいとほれるか、さあさしづにおよぶ、さしづしてもまもらねばさしづまでのもの、ようきゝわけ〳〵、なんべん〳〵、これまでの道しりてゐながら、たよりもなく、こゝろもなく、理もなく、道の道とほらんからどう

ならう、しらんといふ日になつてきたのや、どうでもかうでも、心まよいありてはならん、あたゝかいとおもへばさむい、さむいとおもへばあたゝかい、くもるとおもへばせいてん、晴天とおもへばくもる、自由用の理わからんからどんならん、わがさへよくばよいといふ心があるから、かういふ理になりてくる、どうでもかうでも、人間の心ではいかんで〳〵、いくなら此道とはいはん、せいしん一つの理がせかいあざやかあきらかのもの、此理よりない、これをようきゝわけて、あらためてくれ〳〵、めん〳〵でする事なら、どうもならん、いかなるたいせつにせんならんものでも、心にまちがへば、たいせつがたいせつにならん理が、けふの日であろ、さあ〳〵わからんからわからん。

一寸一つはなしておく、かるいはなし女小供でもわかる咄し、かしたる金でもとつてしもたらしまいやで、のこしておけば理はふへる、とつてしもたらなんにもならん、これだけ一寸はなししておかう。

△押て願はんとするとき

さあ〳〵おすまでやで〳〵、おすところどこにあるぞ、つながうとおもてもはなれるものはどうもならん、つけようとおもへど、つかんものはぜひはない、きりのない事いふてゐるから、かういふ事になるわい。

△明治三十年十一月十三日飯田岩次郎氏段々相つのり候に付處分方御願

さあ〳〵尋る事情〳〵、ものといふはほつておいてだいじない

ものと、がいになるものとある、ほつておいてためになるものなら、ほつておいてもよい、みんなよう聞分、ぜん〳〵さしづ、一もとらず、二もとらず、此理よりだん〳〵はこびきたる心といふ理、ふかきのなきうちになほせばなほる、日々だんだん日がたつほど、みんなよりあふ心に理がよりてくる、よるほどまことの理をうしなうてしまう、かうしたならいけんやないかと、なんにもならん事して、今までつんだもの、ほりおこしてしまふやうなもの、二とところも三とところもできるものなら、元のやしきはいらんもの、元わからんからさういふ事するのや、かず〳〵世上に理をおろしたるは、同じ一つの理外にいろ〳〵、あちらで一寸やつてみ、こちらで一寸やつてみても、なりたつたものはあらうまい、つくして十分はこんで十分、年限

たつてこそいつ〳〵までの事情、なにやらかやらほんの一つのこたへもなく、ほつておくから一寸にはいかん、いかんからこれまでほつてある、さいしよは一寸した入物にいれてあるやうなもの、なれどだん〳〵日がたつ、理がふへてくればしまひには入物にはいらんやうになる、なつてからどんならん、でけてからどんならん、いかんものはたれきいてもいかん、よきものはたれがきいてもよきもの、あちらわかれ、こちらわかれ、とんとどうもならん、此事情きゝわけて、これからさき何かばんじこゝろえてくれ、それでけふの日は、わづかの日をまつて、これでといへば、それよりすつきりするがよい、うか〳〵したらどんな事になるやらわからん、あくといふものは、たちかけたら一時はたつものや、ほつておいてはどうもならん、せかい

にはまだまだわかりたものはわづかしかない、はやくにとりてしまへば、けふの日はなきもの、それからそれと心によくがつくから、一人でけ二人でけ、それがたよりになりて、だん〳〵事情といふ、あちらこちら、何もわからんもの、いつまでやつてもいかせん、けふの日は一寸かたずけて、すつきりしてしまうがよいで〳〵。

△明治三十年十一月十八日櫟本町吉川宗七氏の妻たけ身上御願

さあ〳〵尋る事情〳〵、さあたづねる事情にはよぎなく事情事情であらう、身に一つ事情は一時たへられん事情から、日と事情〳〵ふみとめたるは一時事情心えん、一時はじめて一時はこんであざやか事情、どうも日々ひまがいるようきゝわけ、これまでけつこうは日々おもひ一つ理がこゝろなれど、身上から事情心から一つ理がわかるなら、ばんじあきらかようきゝわけ、一時だいじてあるほどに〳〵、一時たすけもらへば結構なれど、一時なんともなあ日々日がのびる、日々はこびかたどうもわからうまい、はなし事情からきゝわけ、一つ理からばんじ理であるほどに、ようきゝわけ、どういふ理きゝわけるなら、まあ世上理ある〳〵、どういふ理いく人よる、人かずわからん、人よりあつまるえらい人なれど、しゆんきゝわけ〳〵、人間はことばでしたとてでけやせん、遠く處海山こへ、ながい間〳〵のみち、萬事事情理このきゝわけはどうも一時事情はこぶは日々おもてゐる、又おもはにやなろまいようきゝわけ、ながい年限どれだけどうしたとてながい年限、どれだけどうしたとて天

よりあたへなければなきもの、どうなりかうなり又この事情きゝわけ、あちらへはしりこちらへはしり、ひるとよるついではなし、理ついてもあたへといふ理、まあ今年よかつた〳〵、この理きゝわけ、神の道はながい〳〵おだやか、國々の道とほい道はる〳〵つたうてくる、理きゝわけばわかるようきゝわけ、是の事情きゝわけるなら一時どう〳〵でない身上〳〵、身上ばかりおもてゐたらどうもならん、どうでもかうでもほんに世界あのとほりなら、日々理あるならかう、ほんにめん〳〵も鳥渡此の事情きゝわけて内々事情にきゝわけ、よい事つゞけばよい〳〵、つゞかねば一つ心に事情なけにやならん、ふみとめたる間に内々きゝわけ、日々事情によつてはたらきせにやならん、あちらかけついてこちらかけついて、日々とせい、日々はたら

きせにやならんなれど、其内々一時たてかへ一年二年なにをしてる、あのものならほんになあといふやうに日々心につんでくれるやう、日々の心年々はこぶなら、ひるにひるよるによるついであるかいでも、日々人々あたへある、これきゝわけるならなにほど〳〵どうしたとていかん事、人はしらんそれより順序第一、日々とりやりよき事ばかりならよい、ようきゝわけなら〳〵、この理きゝわけるならほそい〳〵うすい〳〵これよりかゝりてくれるなら不自由ない、これ内々きゝわけ、あの人かはりたあきない〳〵、かはりた世界第一日の世界積む臺である、一つようたづねにでた、身上からほんにかういふ理きいた〳〵、さだめてくれるやう又一つさとしとよう、たぶんあるある、結構いふたて身に事情あれば日々たのしみあらせん、たの

しみわからん、身上に一つ事情ないといふは、日々たのしみようきゝわけてくれ、これより内々きゝわけてよき事ばかり身上の處一寸にいかん、一寸にいかんかなれど心といふつみかさねばだいといふ、とりようかはりてはならん、ようきゝわけてくれるやうさしづしておかう。

△明治三十年十一月二十日九つ鳴物の内三味線を今回薩摩琵琶をかたどりて拵へたに付御許願

さあ〳〵何か尋事情、事情は心おきなうゆるしおく、是迄ぜん〳〵事情のときだんじ、あれもどうこれもどう尋出で、一列子供の事情によつてゆるしてある、何かの處十分じやなあ思ふ、どういふもの時々尋でばさしづする、さしづの上、だんじといふ、どんなさしづしても、こんなさしづはなあと思はぬやう、たがひにむすびあはにやならん、事情によつてむすぶ理もあれば、事情によつてほどく理もある、心もやむみもやむやうではいかん、のち〳〵の事情はくはしいさしづするから、なりもの一條はゆるそ〳〵、みなよりあふてよろこぶ心をもつてすれば、神は十分守護すると、さしづしておく、なりものはゆるそ〳〵。

△同胡弓の事御願

さあ〳〵どうなりかうなり、なりものそろふたらはじめかけるがよい、なるも道ならぬも道、つけかけた道はつけるほどに〳〵、ならんといへばはいといへ、年々の道をみて、あぐさむ心はもたぬやう、あぐさんでしもたら、しまいじやで〳〵。

△各分支教會及出張所に於て三つ鳴物を奏する事御

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあ〳〵品はかはれど、理は一つ〳〵、たづねる理は、みな〳〵許しおかう〳〵。

△明治三十年十一月二十日（舊十月二十六日）鳴物、琴、胡弓、三味の替り入る勤め人數に付御咄

あちらひきこちらひき、まるでひいきのひきたふし、ひきたふれ、ひきたふれのいたる事しらんか、是からといふは何か一つの心になつてくれ、心さへ一つになればどんな中でもつれてとほるといふは、ぜん〳〵まいよ〳〵の理にしらしたる、みんなだんじあひそれはよいなれど、だん〳〵の中に理がふれるからどうもならん、これもう一つほこりたつたらくらやみで。

△引續きとめきくの事情御願

もと〳〵みなかゝりわからん、わからんところからはなしをきいて道についた、事情の理もわからん、二十五年壽命ちゞめてけふのみちといふ、どう理せかい理をもつて今の道ともいふ、だんじあふて是までの理〳〵、人間からあれこれのへだてわかるものやない、いらんといふて出るものはどうもならん、是迄の處いく名何人あつた、ふるい事情けしてはならうまい、心でけすことはどんならん、どうなりかうなりのみちまつてゐるものはそのば〳〵のとくしん、よろこばして一時にでらるものやない、それ〳〵だんじあふてこれ一つの理、みなよせて此月はたれそれ、又の月はたれそれといふやうにはこぶがよい、たのしました理をけつてしまへばけすのもおなじ事。

△明治三十年十一月二十七日飯田氏の件に付北分教

會所の事情、會長始め役員五六名立會の上先々心得の爲御願

さあ〳〵尋る事情〳〵、いかな事情も尋ねにや分ろまい〳〵、わからんから事情尋る、尋るならば一つ事情さとしおかう、これまで事情年限かぞへてみよ〳〵、年限いろ〳〵の道ありてもうどうならうかしらん〳〵、その道つれてとほりた道ようきゝわけ、なんぎ不自由苦勞艱難の道つれてとほりて種といふ、種なくして實はのらうまい、この理から萬事聞分、これまで苦勞艱難の種、たねからつんできてそれよりどういふものもはへるなれど、中に心の理によつてはへん種もあろ、道といふ道にがといふ理どうもならん、がはいらん、たゞかなゝ道にさとしおかう、わかりよい道にさとしおかう、子供でもすぐにわかるみな道に元がある、この道わかるならみな一つ〳〵この事情きゝわけ、一時たづねる事情、二人に事情むすんだ、事情元々いふ理になる、元や二つも三つもむすんだ道やない、元かいしんからこの道こもりある、なれどどうもならん、かなな理にさとしたる、こんものにむりにこいとはいはん、くるものにむりにきなといふ道やない、又むりにどうせいかうせいとはいはん、くるものにどうせいとはいはん、むりにいはいでもしまいにはなりてくる、是までみなさとしたる、又日々さとしたる中にある、又さとしてゐるやろ、この理きゝわけ、どちらやらう、こちらやらう、年限理かぞへてみよ、どちらやらうこちらやらう、こちらやらう、こちらやあちらやと心の理がへんじるからこゝろつなぎが第一、すつきりつないでくれるなら、ばんじこれよりみちとい

ふ、よくきゝとつてくれるやう。

△明治三十年十一月二十七日北分教會事務所の東北の方に於て二間に五間半の建物願

さあ〳〵尋る事情〳〵、さああつまる一つ理心え一つ理、事情たちや一つの事情の尋ね、たちや一つ重々みなゆるしおくが、一つさとしおくによつて、よくきゝわけ、元々どこにあるかないか外にあるかないか、この理きゝわけて一つ〳〵理をさとしあちらやこちらや、そも〳〵一つの理治まりがたない、これあらためてみちわかるなら今一時に道治まる、ばんじ一つさとそ〳〵、よくきゝとつて一つあらためて重々一つの道といふ。

△明治三十年十一月二十七日北分教會治め方御指圖の跡へ御咄

一つさとし、さとしおくによつてよくきゝわけ、元々どこにあるか、ほかにあるか、この理きゝわけて一つ〳〵理をさとし、あちらやこちらや、そも〳〵一つの理をさまりがたない、これあらためて道わかるなら今一時に道をさまる、萬事一つさとそさとそ、よくきゝとつて一つあらためて、重々一つの道といふ。

△明治三十年十一月二十九日平安支教會長を板倉槌三郎氏に變更の上龍田村元すみやへ假りに移轉願

さあ〳〵尋る事情〳〵、どうも事情によつて、なが〳〵どふも事情によつて、どうもさあ〳〵、ようこの一つ事情からのさしづをする、みんなそれ〳〵、よいとわるいとの理をわからにやなろまい、わかりてあれば、事情はない、わかりてなければ道

とはいはん、萬事一つの理も、あんぜる理もない、これ一つはなしかゝり、これ一寸したらどんな事でもをさまる、わからんからをさまらん事できる、よいとわるいとわかれば、なにもいふ事ないもの、教には一つの理、一筋の理、さいしよ身上から一つの理もある、なにかなしの理もある、これようきゝわけ、今一時尋る處、いかなる事とおもはにやならん、道といふものは、たれもしらんものはあろまい、又ない理はしろまい、ほんの事情、みんなそれ〳〵、どうでもゆかうまい、どうでもならうまい、年々おくりたる理はこれもさとさにやならん、又一時尋處、あとあとつい〳〵尋ばはやくさとさにやならん、今一時尋る事情、どうでもかうでも、みるにみられん、きくにきかれん道ばかりである、十分道はかりて心得迄、十分道はこんで、

それよりあきらかな日、はやく〳〵、はこんでみせにやなろまい〳〵。

△擔任板倉槌三郎願

それはなん時にても、一つの理なけにやなろまい〳〵、尋事情にゆるしおかう〳〵。

△龍田へ移轉する事情願

さあ〳〵まあしばらくの處、處かへにやなろまい、どうもせかいから、なんともたとへられん事情である〳〵、この事情はどういふ處からでる、みな心からでるのや、みなおもひ事はずれたる、つゞいて刻限しらしたい、刻限にはかきとりの事情、どうもあれこれ〳〵、尋ね〳〵の事情に、刻限さとさにやならん、重々の理、あら〳〵のち〳〵事情、尋理にさとするによつ

て、きゝわけてくれにやならん〳〵。

△同神霊を其儘移すものか又は幣を持ていて御移り被下ものか御願

さあ〳〵尋處、それはどちらでもよい〳〵、處一つ事情さへしばらくあらためたら、道理といふ理たつてくる〳〵、いそがにやならん〳〵。

△明後日出こす願

さあ〳〵どうでかけあひのときは、どうかかうか事情あろ、道がちがふからどうもならん〳〵、どんな事だしたて、あらい事はいらん〳〵。

△平野、松村、板倉三名出張願

さあ道理から今日の日、道に二つはない、道の理は二つない、

心はおほきいもたにやならん、あちらもそれ〳〵、こちらもそれ〳〵、どんな事あつてもおほきいこゑだすのやない〳〵、みあかしがいる〳〵、あんじる事いらん、道理にかなはんからかうなる〳〵、道理まげる事いかん、そこで心にもつて運ぶならすぐと〳〵。

△明治三十年十二月三日中河分教會整理の事に付き増野、桝井、喜多三名運ぶ事御願

さあ〳〵尋る事情〳〵、さあ〳〵ぜん〳〵に事情をさめかた〳〵、一つ事情尋る、事情には一つめん〳〵に事情きりて一つさしづおよんだる、年限きらずあざやかさしづしてある、一時尋る事情三名に事情さとしおかう、よくきゝわけ、事情はよぎなく事情であろ、そも〳〵の理はどうもならん、はやいものあ

ればおそいものある、はやいものでおそいものでも理に一つ治めにやならん〳〵をさまらん理きゝわけにやならんで、道といふ道はなんでも治めかた、治めかたでなんでもない、苦情（一本なんでも日々事情）一寸といふ〳〵なれどよき理がますといふ、又一つむさくろしい理にはむさくろしい理がまはる、これ一つ治めかたにさとすようきゝわけ、何程きいたて心はたらかさにやおなじ事ようきゝわけ、尋ねてさしづしても、つたへんさしづはいらんもの、さとすまではたらかん理は、尋てもさとすまでわからん事なら、さとすまでさとしたら、日々はたらく理にある處、治めかたかはり〳〵理をもつてたすける心なら、道ははやくわかる。

△明治三十年十二月三日本部の風呂新築願

さあ〳〵尋る處〳〵は、さあ〳〵、それは何時なりとゆるしおかう〳〵。

△明治三十年十二月十一日平安分教會事情飯田春木上田等上京せしに付本部より運方如何して宜敷哉御願

さあ〳〵尋る事情〳〵、事情にはかはつた事やなあ、へんな事やなにとおもふ處、ようおもふてみよ〳〵、まいよ〳〵の事情は、いくたびの事情に、どういふ事もさしづにおよんだる、こくげんにもさとしてある、だん〳〵けふの日たづねる、どういふ事やろ、できる事できたがするはどうやらうとおもふ、しやんせにやならん、かずかずのしやんするから、どうもならん、わからんやうになる、第一のしやん、あちらがくもり、こちら

がくもり、水がつく、そら大風といふ、一時もつて尋る處、事情にはする〳〵の處、かゝりかゝりの事情、どうならうとおもふ、さきをもつて尋る、かきをせにやならんとおもふ、ようしやんしてみよ、一寸の事でもどうやらうとおもふ、なんにもしやんはいらん、しやんいらんといへば、ほつておいてよいと思ふ、ほつておいてよいと思ふ理を、たつた一つの道からできてきたる、はんぜんならん事情、あと〳〵どうならうと思ふやらう、上も下も中もきゝわけてみよ、なんにもあんじる事はいらん、せかいからはどういふ事情あるとはわからうまい、此道一つ是迄の事情、今一時の事情せかいの事情、どうりはおほきなものであろ、おほきい理といふものは、おほきいをさまりてない、をさまつてないから、かういふ事になる、しんぱいして何も心にかける事いらん、よる〳〵はたらいた處が、そんするやうなもの、道理をはずすからでけん、でけん道理に理をつけてはこぶからどうもならん、人間一つの心ではこんだ處がいかん、いかんからをさまらん人間心とつてしまはにやならん、しんぱいの上のしんぱい、一つの道にあちらこちらから、くもりができてしんぱいする、我子で我子のしめしでけんのは、親のちからのないのや、これは道理からとつてみよ、ちがふかちがはんか。

△橋本氏辭職は聞屆けしが前川氏よりも辭職願出られ候に付如何取計ひまして宜敷哉

さあ〳〵尋る事情〳〵、なにほどつなぎたいとおもへど、つながれんがどうりや、こすにこされようまい、でてきなといふや

ない、でてきてはたらきやどうもいへんがどうりや、みな一つの心になりてようしやんせよ、是れまでかんなんのみち、今のみち、たがひの道、つらいものもあれば、陽氣なものもある、神がつれてとほる陽氣とめん〳〵かつての陽氣とある、かつての陽氣はとほるにとほれん、陽氣といふは、みんないさましてこそ、しんの陽氣といふ、めん〳〵たのしんで、あと〳〵のもくるしますやうでは、ほんとの陽氣とはいへん、めん〳〵かつての陽氣は、しよがいとほれるとおもたらちがふで。

△御本席様御身上御願

さあ〳〵尋事情〳〵、まあこれまでといふは、いさゝかきぶんがわるいといふ、これまでとき〳〵さとしてある、こくげんにもさとしてある、これまでちがふ事情はさとしてない、ながい

みぢかいめん〳〵それ〳〵、心からとりかへるならかはらんさしづする、席の身上きぶんわるいといふ、きぶんわるいといふても、それ〳〵の心やすましてゐる、ようこれみんな一時に耳にはいり、心にをさまるならあんじはない、これまではかりがたないといへばさぶしいもの、ほんにとりちがへていたとおもふなら、あざやかしつかりしたものや。

△東京及夫々運び方御願

さあ〳〵心さへ十人なら、十人一人の心と、おなじ心にかはらんなら、どこへどうする事はいらんもの、さしづをきいているだけ、ほんにかうとおもふ、さき〳〵の處、一時はどういふ理になるかもわからうまい、ほんにわからうまい、あちらへうつす處きつたら、よいとわるいとわかつてあるやらう、みんなの

心がそも〳〵であるからわからんのや、しゆんをもつて一時みちをはこんだる、うつしたる、なんぼはこんだ處がなんにもならん、心といふ理一つをもつてとほれば、とほれん處でもとほれる。

△前川氏の辭職は此儘にしておいたものですか御願

さあ〳〵やすむときは、やすますがよいで〳〵。

△明治三十年十二月十二日増野氏身上御願

さあ〳〵身上から尋る、事情一人の事情から尋る、一人の事情もつて尋る、尋る事情にさとしおく、みな聞とつてつたへ、身上たづねたらかういふ理さとしおかれた、まよい〳〵はなしあり、これまでさとしあるどうも内々この地場に事情大へんわからん、一時にはわかる、理にぜん〳〵さしづきいてそのまゝかさね、だん〳〵みぐるしい理もある、これよう聞分にやならん〳〵、なれど一つやう〳〵の理をどうなりかふなり、何程しんぼうしたとてならん理はこすにこされよまい、この理みんなだんじあふて身上たづねたさしづかういふさしづありた、いかゞであらうと一日の日、どういふ事あちらこちら事情、内々も内々事情なら、外の事情、内々事情ありて外の事情、内々にはどうもなあといふみんなだんじしておかにやならん。

△明治三十年十二月十三日桝井氏老母目の障に付弟政二郎氏を引戻し安太郎氏でる事に付御願

さあ〳〵尋事情〳〵、事情だん〳〵、それ〳〵あちらこちら事情たづねでる、とほくところより〳〵ようでも一つ内に心えん事情、尋る事情さとしおく、まあうちうちとほくところでこす

處みやわせ、一つ事情さとしせにやならんものもある、一名一人よりさとする理たぶん〳〵事情ある、事情できがたない事情、あちらこちらの身のさわり、だん〳〵事情たてあひたてあふ〳〵、あちらこちらつくしかけてもまだ〳〵年々やう〳〵一つきる、わがみきるわかる、それ〳〵だんじあふきゝわけ、だいじけん〳〵事情年限大事件どうかうの事おもふ心がちがふ、神がしたのやないで、萬事さしづどほり刻限事情、なんにもこまる事情はない、みなこしらへて苦勞せにやならん、一つの理二つの理がある、つなぐ道きる道もある、はなし重々の理につたへ、くるものにくるなとはいはん、こんものにこいとはいはん、いつ〳〵のだいにさとしある、神とたゞ一つもこしらへる理はいらんで、一つ〳〵かたずけあきらかといふ一つ心たのしみといふ心ををさめ、内々事情は萬事あんじる、でこす處あんしんみせて一つ事情、一つの事情さとしおくがよい、さあそらやその日きて、若か〳〵たゝんとしがしまてしまたにたゝん、心一つ神一條の理をもつてでれば、何にもあんじる事はいらん、これ一つさしづしておく。

△明治三十年十二月二十九日吉川宗七氏妻たけ身上

御願

さあ〳〵尋る處〳〵、ぜん〳〵にこれまで萬事の處事情一つの處さとしある、やう〳〵の處さうであると心をさまる、又身上一寸にはいかんとさとしたる、だん〳〵これでよからうとおもふ、又一つ心えんこの一つ事情わかるまい、よう事情聞て内々の事情どうしようかうしよう、いふまで内々にはこれでなあ、

日々さむしい心をもたず、身上ながく事情どうなりとしてとおもふ、一時あざやかならん、日々の處一時事情、内々よほど定め、いまゝで大きに行くは大きくなるしやんなれど、元もなく末もなしでは何もならん、天よりあたへはきまりある、一つ實といふ〳〵はよはい心よう聞分にやならん、どちらこちらからつゞく理はよはい心がつゞく、よはい心がつゞく、かる荷はどこまでももつてゆける、まいにちかるいにはもつて通れる、おもい荷はとほく行けん、むかうへもゆけねばあとへもゆけん、これから一つさとれ、親一つ内々一つ事情ようしやんせにやならん、ほそ〳〵ほそいものよはいもの、よはいものがかたい、ふといものはもてん、こんなさしづはないほどに、ものに理がつゞいてのさしづやで、身上不足よほど大そう事情しいかり定めてくれるやう。

△明治三十年十二月二十九日舊三十一年正月四日朝

吉川宗七氏妻たけ身上御願

さあ〳〵だん〳〵事情もつて尋る事情、ぜん〳〵の事情は一時事情にさとしたる、一寸にはいかん、一つの理にさとしたる、どうなりかうなりの日を送りきたる、一時たづねる處ほのかの處やあろまい、重々の理はこれまでにみなとほりきたる、長い間にどういふ事もかういふ事もきいて、それ〳〵分りてある、けふの事情尋る事情だん〳〵のさしづ、ぜん〳〵いつ〳〵までの理である、もうよかろか又かはる、いかにもながいとおもふ、どうであらう、日々であらうよぎなくの理を尋る、身上はほのかの事情になりてある、ぜん〳〵よりもさとしたる、理と

理、とりぞこなひなきやう、よう聞分ておかにやならん、にんげんといふ一代ぎりとおもふたらどんならん、なす事よい事ばかり、代々なら何もいふ事いらん、なす事よい事もあればどんな事もおなじ一つの理である、よい事ばかりなら何もいふ事はない、どうなりてもかうなりても道は一つ、心といふ理をさめるより理はない、遠い處やない、なんぼ近い處でもわかる、心がなくばわからん、心といふはめん〳〵の理、身はかしもの身上はよほどたいさうである、どうなつてもかうなつても此道より無きものとさしづにおよんでおくから、よう聞分にやならんで。

おさしづ（明治三十年）**終**

317
256

昭和三年二月廿八日印刷
昭和三年三月四日發行

非賣品

奈良縣山邊郡丹波市町字布留百十二番地
編輯兼發行者　天理教同志會
代表者　田邊要藏

大阪市南區鰻谷中之町三十九番地
印刷所　合資會社　中村盛文堂
代表者　岡本省三

不許複製

終